

説明書

治療・検査の名称	経尿道的後部尿道弁切開術
----------	--------------

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

後部尿道弁

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

後部尿道に弁が存在して尿道を狭くしている状態

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

後部尿道弁による尿道狭窄によって生じる排尿異常や逆流性腎症による腎不全を防ぐため

4. 方法（なにをどうするのか）

経尿道的に膀胱鏡を挿入し、後部尿道弁による狭窄を認めたらコールドナイフで膜様の弁を切開し狭窄を解除します

5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

尿道カテーテルを止血目的と切開した内腔を保持する目的で 1-2 週間留置し抜去します

6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

出血、感染、再狭窄、尿失禁、尿道括約筋損傷などです

7. 合併症発生時の対処について（費用負担もふくめて）

病院の方針に準じます

8. 受けない場合の予測される経過、代替手段（他の治療法）

排尿異常が持続し膀胱内圧が上昇した状態が継続すると上部尿路障害に至ります

9. 説明内容の理解と自由意思による同意承諾およびその取り消しについて

いったん同意をされた場合でも、いつでも撤回することができます。やめる場合は、その旨を担当者へ連絡してください。

この手術に同意されるかどうかは、患者様の意思が尊重されます。同意されない場合でも、不利益を受けることはありません。

現在の患者様の病状や治療方針について、他の専門医の意見を聞くことも可能です(セカンドオピニオン)。その際は、ご相談ください。必要な資料をご提供いたします。

10. 緊急時等

速やかに対応します

11. その他

術後創の痛みは麻酔科と協力して、改善に最善を尽くします

術者： _____

説明者

説明日： 年 月 日 施行予定日： 年 月 日

診療科名： _____ 説明医師氏名（自著署名）： _____